

第 52 回 岐阜大学フォーラム 岐阜大学環境月間行事

## 「環境ユニバーシティフォーラム」

と き : 11 月 14 日 (水) 13:30~15:00

と ころ : 岐阜大学 (全学共通教育講義棟 102 番講義室)

### ◆ 講演 ◆ 『長良川の鵜飼』

講師 : 宮内庁式部職 鵜匠 山下 哲司 氏

コバルトブルーのきれいな目に、鉤型のすどい口<sup>みぎがた</sup>嘴をした野生の海鵜<sup>くちばし</sup>が我家に来ました。私と彼との生活の始まりです。荒海に生まれた野生の彼にとって、いままで見たとの異なる世界へ入り、我が家族の一員となったのです。この相手は安心できる生き物として彼が私を認めてくれるまで、根気よく頭をさすり、体をなでてやり、声をかけます。愛情をそそぎ、少しずつ彼との対話が始まります。あの澄みきった丸い目でくい入るようにつめる彼を、私が頭や喉をさすって愛撫すれば、彼もまた私に心のたけを打ち明けるとく甘えてくれるようになります。このような生活が私の一日であり、一年であり、また一生であります。

岐阜長良川の鵜飼は、およそ 1300 年の歴史を誇っています。この「人と鵜との出会い」は、まったく変わることなく、代々親から子へと繰り返されてきたのです。親の生きざまを見、仕草を見、実践でしか得られないパートナーとの呼吸、すべてがマニュアル通りにはいきません。

長良の清流に毎夜展開されている鵜飼。金華山を背景に、漆黒の闇の中、一つ、二つと篝火が見え、6 隻の鵜舟が上流より下ってきます。赤々と燃えさかる篝火に映える風折烏帽子、腰みの姿の鵜匠。縦横無尽に潜る鵜たち。ホーホーホーという声で鵜たちをはげましながら、鵜たちをみつめ、鵜との絆の手縄をさばく、真剣なまなざしで鵜は潜り鮎を追う。とんきよな顔をして浮かび上がる鵜。誇らしげに水上で鮎をのむ鵜。愛らしくもあり、良きパートナーたちです。一瞬一瞬のピーンとはりつめた時間が、川の流れと共に過ぎていく。この醍醐味こそが本来の鮎漁としての鵜飼である。その根底には、家族同然の鵜たちがいればこそであり、伝統文化たる由縁であると思ふ。



写真提供 : 岐阜市



どなたでもご参加いただけます (事前申込不要・無料)

問い合わせ先 : 岐阜大学環境対策室 ☎ 058 (293) 2117

Forum @ Gift-u.